



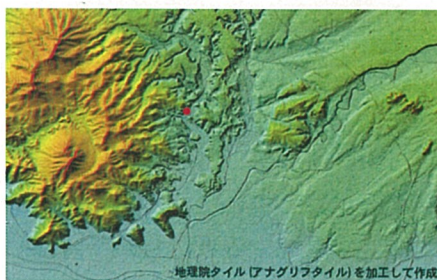
釜尾古墳

被災した装飾古墳の復旧の現状と取り組み

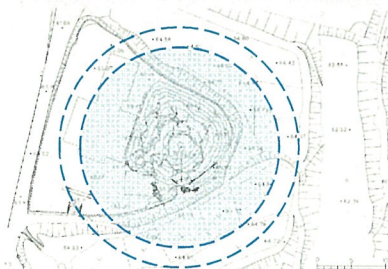
1. 釜尾古墳の概要
2. 地震直後の状況
3. 地震後の取り組みと被災状況
4. まとめ

熊本市 文化振興課
三好 栄太郎

1. 釜尾古墳の概要

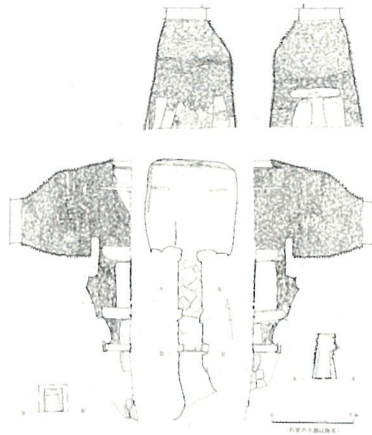


- ・国指定史跡 (T10.3.3)
- ・熊本市北区釜尾町
- ・径30m程の円墳
- ・主体部は横穴式石室
- ・6世紀



装飾古墳

複室構造の横穴式石室



石屋形に描かれた装飾



図は両方とも熊本県教育委員会1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』より

調査・修理歴

緑文字：調査等
青文字：改修等

明和六年 (1769)	江戸末、明治初期	大正五年 (1916)	大正六年 (1917)	大正七年 (1918)	大正十年 (1921)	大正十二年 (1923)	昭和二十年 (1945)	昭和二十六年 (1951)	昭和三十三年 (1957)	昭和四十二年 (1967)	平成二年 (1990)	平成二十年 (2008)	平成二十八年 (2016)
・発見、埋め戻す	・天井崩落	・深澤、下林繁夫による再発見	・青年団による修理	・京大による調査	・国史跡に指定	・覆屋建設	・台風で覆屋が大破	・仮小屋建設	・井芹川水害で被災	・大改修	・北部町による発掘調査	・環境調査開始	・熊本地震

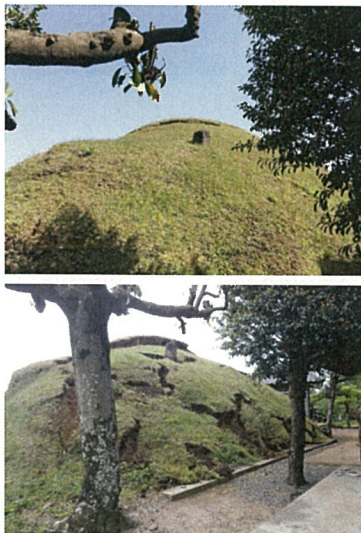
2. 地震直後の状況

墳丘の亀裂・崩落



3. 地震後の取り組みと被災状況

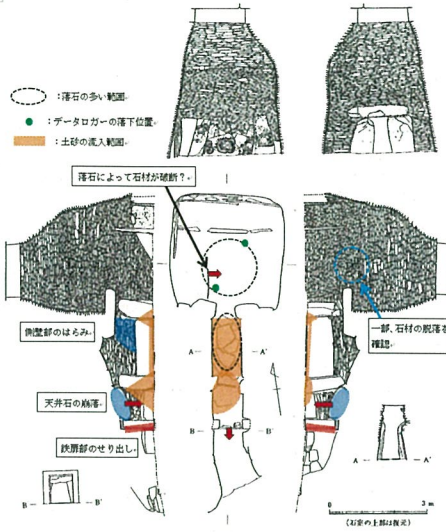
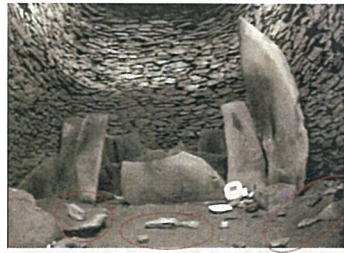
地震後の状況確認



シート養生

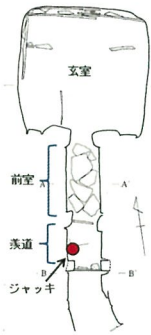


奈文研による映像調査
平成28年8月17日



内部写真と図面は文化庁・熊本県教育庁2017『平成28年熊本地震による古墳の被災状況について』より

入口部分のサポートと流入土撤去 平成29年12月



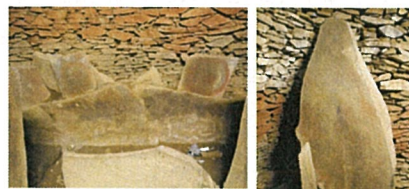
入口の天井石が下がっている



入口部分の流入土



地震でせり出した前室の壁 (左が地震前、右が地震後)



玄室の石層形



石層形天井石



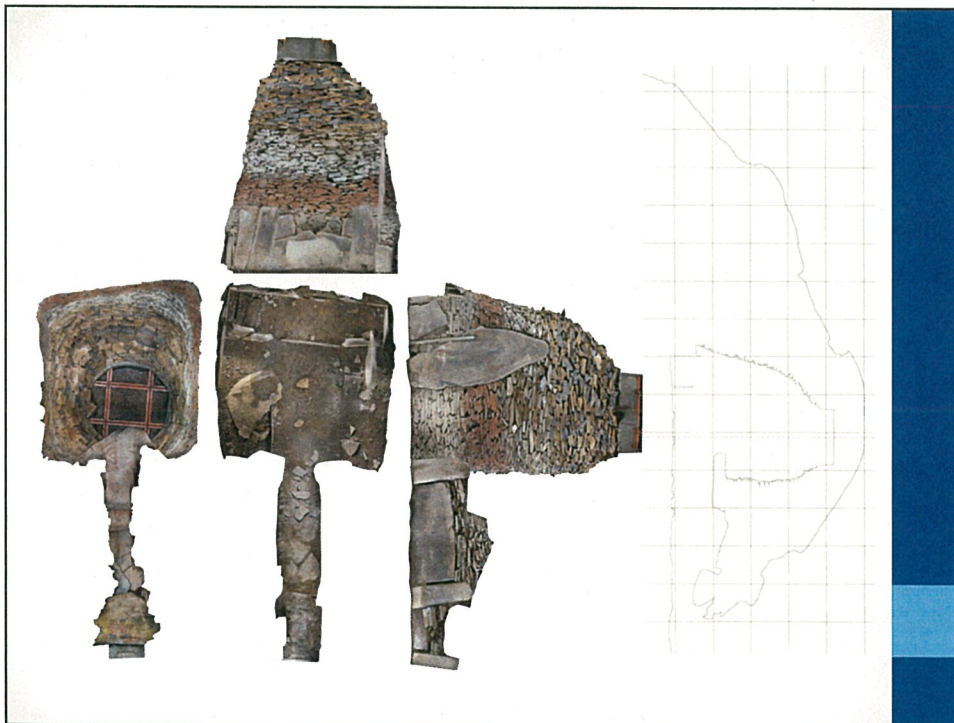
入口天井石のサポート



羨道東壁

図は熊本県教育委員会1984『熊本県裝飾古墳総合調査報告書』より加工して作成
前室の写真で地震前のものは小椋大輔(京都大学)より提供

墳丘測量・石室実測 平成30年1月



点検調査その1 古蹟の調査と結合被害調査											
エリア区分	指定名称	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日
カマヤ	カマヤ	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年
所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地

調査項目	被害地の範囲・状況	被害											
		01 瓦の破損	02 瓦の欠け	03 瓦の欠け	04 瓦の欠け	05 瓦の欠け	06 瓦の欠け	07 瓦の欠け	08 瓦の欠け	09 瓦の欠け	10 瓦の欠け	11 瓦の欠け	12 瓦の欠け
1	瓦の破損												
2	瓦の欠け												
3	瓦の欠け												
4	瓦の欠け												
5	瓦の欠け												
6	瓦の欠け												
7	瓦の欠け												
8	瓦の欠け												
9	瓦の欠け												
10	瓦の欠け												
11	瓦の欠け												
12	瓦の欠け												
13	瓦の欠け												
14	瓦の欠け												
15	瓦の欠け												
16	瓦の欠け												
17	瓦の欠け												
18	瓦の欠け												
19	瓦の欠け												
20	瓦の欠け												
21	瓦の欠け												
22	瓦の欠け												
23	瓦の欠け												
24	瓦の欠け												
25	瓦の欠け												
26	瓦の欠け												
27	瓦の欠け												
28	瓦の欠け												
29	瓦の欠け												
30	瓦の欠け												
31	瓦の欠け												

点検調査その1

● : 被害を確認
 △ : 被害の可能性
 □ : 確認対象外

点検調査その2 現況写真											
エリア区分	指定名称	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日	指定年月日
カマヤ	カマヤ	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年	昭和23年
所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地	所在地

調査項目	被害地の範囲・状況	被害											
		01 瓦の破損	02 瓦の欠け	03 瓦の欠け	04 瓦の欠け	05 瓦の欠け	06 瓦の欠け	07 瓦の欠け	08 瓦の欠け	09 瓦の欠け	10 瓦の欠け	11 瓦の欠け	12 瓦の欠け
1	瓦の破損												
2	瓦の欠け												
3	瓦の欠け												
4	瓦の欠け												
5	瓦の欠け												
6	瓦の欠け												
7	瓦の欠け												
8	瓦の欠け												
9	瓦の欠け												
10	瓦の欠け												
11	瓦の欠け												
12	瓦の欠け												
13	瓦の欠け												
14	瓦の欠け												
15	瓦の欠け												
16	瓦の欠け												
17	瓦の欠け												
18	瓦の欠け												
19	瓦の欠け												
20	瓦の欠け												
21	瓦の欠け												
22	瓦の欠け												
23	瓦の欠け												
24	瓦の欠け												
25	瓦の欠け												
26	瓦の欠け												
27	瓦の欠け												
28	瓦の欠け												
29	瓦の欠け												
30	瓦の欠け												
31	瓦の欠け												

被害地の範囲・状況		写真											
		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12
被害-外観													
被害-内部													
被害-瓦葺													
被害-内部瓦葺													

点検調査その2

点検調査その3 古墳図面

フリガナ 全頁名	かすや	指定名称	指定名称	指定年月日	大正19年3月3日	所管者	茶敬通人	管理団体	熊本県	所置地	大正4年 大正15年 昭和14年 昭和41年	林業月 昭和15 昭和15 昭和15	その他 参考資料	総説に引用が あるか?
所在地	熊本県	調査地 の種別	調査地 の種別	所在地	北區字岡園	管理番号		指定年月日	平成23年6月14日					

指定地の概要・状況	01 地 盤 ・ 結 核	02 神 聖 の 一 部 ・ 跡 地	03 水 田 開 墾 の 跡 地	04 墳 頭 の 遺 跡	05 外 周 の 遺 跡	06 墳 頭 全 部 の 変 形	07 石 材 の ひ び 割 れ	08 石 材 の 腐 蝕 ・ 取 落	09 石 材 の 欠 損	10 石 柱 の 傾 き ・ 割 れ	11 石 柱 の 傾 き ・ 割 れ	12 石 柱 の 傾 き ・ 割 れ	13 石 柱 の 傾 き ・ 割 れ	14 石 柱 の 傾 き ・ 割 れ	15 遺 跡 の 傾 き ・ 割 れ	16 遺 跡 の 傾 き ・ 割 れ	17 墳 頭 の 傾 き ・ 割 れ	18 墳 頭 の 傾 き ・ 割 れ	19 墳 頭 の 傾 き ・ 割 れ	20 墳 頭 の 傾 き ・ 割 れ
-----------	-----------------------------	--	---------------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--	-----------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

横道-墳頭図面

縦断-石室図面

点検調査その3

古墳損傷チェックシート（点検調査）について

- ・被害状況調査の必要性（報告書より）
 1. 文化財の滅失や被害の拡大を防ぐ
 2. 被害状況の類型化
(被災状況の把握方法の確立、危険な状態を事前に把握)

→チェックシートで被災状況を客観化

- ・使用して感じたこと
 - ・観察ポイントが明確になる
 - ・基本的には使いやすい
(見本や注意書きをもう少しいただければ・・・)
 - ・土木の専門家でなくとも健全度の評価がある程度可能なのか？

4. まとめ

今後の予定

- 被害状況の確認段階
- 調査を重ねながら復旧方法を探していく

<1919年頃の撮影 京大報告より>



<1919年頃の撮影 京大報告より>



課題

※装飾古墳→技術的課題多い

- 健全度の判断
 - 被害状況の把握
 - 以前の改修状況の把握
 - 地震後の環境変化
 - 石材や装飾の特性の把握
 - 復旧作業時の環境変化とそのコントロール
-
- これらの課題や文化財の状況を踏まえた総合的判断